
『死神の手下』な僕

アヴィス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『死神の手下』な僕

【Zコード】

Z2092A

【作者名】

アヴィス

【あらすじ】

何があつたのか分からぬままに、突然『死神』の手下にされてしまった僕の悲劇かつ感動のストーリー。

(前書き)

ラジオに残虐な起こされ方をされた僕は、何気なく一階の居間に下りました。

そしたら・・・そしたら、突如現れた謎のひひいいイイイイ！！。
こ、これ以上言つとこ、殺されてしまいそうなので、い、言えませ
ん・・・。
ごめんなさい。

閉め切ったカーテンの隙間から、朝日が差し込みます。

今日も、いつもと同じ様に、田覚まし時計ならぬ「田覚ましラジオ」が、

調子が狂うほどに、けたたましい雑音と共に、Hマークを奏でる轟音を発しました。

当然ながら、朝日でのさわやかな寝起きどころではありません。布団で耳を覆いながら、ゆっくりとそのノイズメイカーに歩み寄ります。

「今日の天気は　ズツザ、ザアーー　になるで、プツツ」というにかラジオが狙う『音殺』を免れた僕は、安堵の吐息を漏らします。ボテツ・・・

あまり普通ではない音が部屋に響きました。

『それ』に気づくまでに僕は数十秒かかりました。
机の上にあつた磁石が落ちたのです。

僕は、キーンと言つ音の超音波を感じ取つている耳をポンポンと叩きながら、

磁石に向かつて手を伸ばしました。

「あ、あれ・・・」

その光景に耳を疑いました？

「えつ、な、何？何で磁石が一人でに動くの？大体なんで僕が近づいたら動き出すの？」

「ねえ・・・何で？」

そこまで言つたとき、ふとあることに気がつきました。

「ん？、なんか体がピリピリしてゐよ。こ、これ、毛が・・・手に生えてる毛が逆立つてゐよ。

・・・ん？、これは・・・これはもしかして『静電気』か？」

そうなのです。あのラジオが発する奇声によつて、僕の体は静電気まみれになつていたのです。

ドゴオオオオン・・・

その日、僕「桜木 直人」の家で電化製品の一つが爆破崩壊しました。

(直人の日記より抜粋)

さて、氣を取り直して朝食を食べに会談を降ります。

下には、すでに出来上がつた朝食と、妹の美奈が座つていました。

「おはよー、直人！！」

中2にもなる僕が、まだ小5にもなつていない妹に呼び捨てされるのは、

はつきり言つて、あまりいい氣分ではありません。

「だから、よつ・・・つて、お母さん居ないの？」

講義をしようと、机に向かうと、一枚の置手紙が目にに入りました。あまりにも、素つ氣無く書かれた一行の文章はツ！！

妹に手をだしちゃあだめよ！！

ナンデスカこの文章は！－

普通なら、「ご飯食べときなさいよ

とか、

「勉強しなさいよ

でしょ！－

「今日は、一人つきりだね」

机に座つた妹が無邪気に言います。

そんな妹を横目で見ていた僕は、突如不思議な感覚におそわれました。

つく、なんだ？なんだこの感じは・・・

だ、だめた、体が言うことを

「つて、・・・ええええツ？・・・ダ、ダレデスカ？」

幻覚なのでしょうか？

いや、今思えば幻覚のほうが数百倍よかつた気がしないこともあります。

一分一秒の間に床とどうかする僕の前には、『一人の美少女』 オオオオオオ ッツ！！

そして、目の前の少女は僕の目を見てこういいました。

「死神」

「はいといいイイイイイイイイイイイイ ッツ！！！」

殺人鬼や、通り魔はまだしも『シニガミ』 デスカ？

何？誰か死ぬの？死んじゃうの？

ツハ！！！も、もしや『お母さん』？

だ、ダメダ、電話を

パニック状態に陥った僕はあわてて脳の正常な領域を作り出し、

部屋の隅にある電話に直行ツツつてエエエ！！

視界の先には粉々に破碎崩壊した電話機がツ！！

「直人？、何してるの？」

ポルター・ガイスト現象より奇怪な現象をみて、分子崩壊していく僕を見た妹が、

何事も無かつたように平常心で話しかけてきます。

「なあ、何つて、見えなひひいいイイイイイ」

『見えない何て、お前の目は節穴か？』と言つ言葉を前に振り出された、

僕の身長の2倍はあると思われる『カマ』らしき物体がさえぎりました。

そして返す刀で、そばにあつた電子レンジを貫切です。

さらに！！僕に向かつておもむろに言つのです。

「あなた、今日からあたしの『手下』ね

つてなわけで、僕の人生はもうめぐらへやがれになつたよつた気(こなつたよつた気)が
します）です。

(後書き)

わけの分からぬ序章でしたが・・・
こ、これでも序章ですよ?
まあ、暇があったら読んでみてください。はい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2092a/>

『死神の手下』な僕

2010年10月15日21時09分発行